

スピーチが完成するまでのプロセス

- 1 **トピック選定** ※ワイユーがあるかを意識する。
- 2 **型への落とし込み** ※10の要素を使う。
- 3 **ブレストとリライトを繰り返す** ※死ぬほどやる。
- 4 **添削、ネイティブチェック** ※躊躇なく自分が書いた英文を変える。
- 5 **全文をレトリカルにする** ※煌びやかな文章を作る
- 6 **タイトル決定** ※最初にあって、最後に決まる。

スピーチに完成はない。だけどスピーチを完成に近づけることはできる。
スピーチを1から作る際に必要な過程は6段階。

1 トピック選定

自分がやりたいと思ったトピックを感覚的に選ぶ。感覚は自分が本当に言いたいことや潜在的に伝えたいメッセージを教えてくれる。みんながやってる話題のトピックだから。とか、このトピックでスピーチすれば入賞できそう。とかいう不純な理由では本当に言いたいことは出てこないし、ジャッジさんに見抜かれる。そうではなくて、あーなんかこういうことが言いたいな。とか、昔からこういうことを多くの人に伝えたくったんだ！！とか。そういうことを大切にする。そこにワイユーがあるから。例えば、自殺とか離婚とか、LGBTについてとか、他の人が同じトピックを選ぶことはあり得る。だけど**全く同じ経緯で同じトピックを選ぶことは決してない**。それは歩んできた人生が人それぞれ違うし、そこから導き出される結論や解答は人それぞれだから。自分の人生を通して伝えたいことは何なのか？それがトピックになるし、ワイユーになる。そして、スピーチを最後まであきらめないで続ける原動力になる。自分は人生の中で何を学んで、何を感じて、何を考えたのか、気づいたのか？そのWHY YOUがあれば自分が一番伝えたいトピックが何なのかがわかる。だからトピック選定はワイユーがあるかを意識する。自分と向き合う。それがスピーチであり、そこから導き出されるサジェスションはオーディエンスを感動させられるだけの価値がある。

2 型への落とし込み

自分が本当に伝えたいことがわかったら、それをどうやって伝えるかを考える。大枠でどんな流れで伝えたら伝わりやすいのかをPREPやAREA、PHCS等を参考に、書いてみたり、自分なりの流れで書いてみる。日本語でもいいし、英語でもいいので全体像をざっくりと書いてみる。結局アイディアルシチュエーションは？とか、ワーカビリティは？プラクティカビリティは？とかジャッジさんに後で詰められるので、10の要素を使って大枠の流れを書いてしまうのがおすすめ。

3 ブレストとリライトを繰り返す。

ブレストやリライトは何か月、場合によっては何年もやる。ブレストしてブレストしてブレストする。リライトしてリライトしてリライトする。そうでもしないと本当に言いたいことや、伝えるべきメッセージや根本的な問題の原因は出てこない。自分は2年生の時に、一通りこのスピーチは書けたし、ジョイントで優勝したし、満足しちゃった時があって、そんな時に天野杯優勝した先輩に、なんか1周しちゃったっていうか、なんか満足しちゃったんですね。って言ったことがありました。そしたら、1周したならもう1周すればいいじゃん。って一瞬で返されました。(笑)とにかく謙虚にブレストしてリライトしてまたブレストしてリライトする。何枚も紙を使ってスピーチの原稿が真っ黒になるくらい書き直して書き直して書き直す。自分は同じ一つのスピーチに3年かけました。それ

はスピーチのセンスがなかったからかもしれないけど、それだけかかってもスピーチって完成しないものだから、何度も何度も何度も、死ぬほどやる。

4 添削、ネイティブチェック

ジャッジさんや周りの人に添削をしてもらおう。ネイティブチェックをしてくれる先生やお友達がいたら最高！周りの人の意見はオーディエンスの意見。自分では気づかないような視点からものを言ってくれる。前半が間延びしていて、後半の内容をもっと先に持って行ったほうがいいよ！とか、イントロがありきたりで感情移入はできるけど、インパクトが足りないとか。データが古いよね。とか。自分で添削をお願いしておいて、いざ周りの人からの意見を聞こうとすると、イライラしたり、悔しかったりする。だけどそれは一つの貴重な意見だと考えて真摯に自分の改善点として受け止めよう。スピーチは1人で作るものじゃない。その人の意見を全部聞く必要はないかもしれないけど、いろんな人の視点を自分のスピーチに取り入れる気持ちで。いいこと、いい部分を自分のスピーチに足していく気持ちで。みんなで作り上げるという気持ちでスピーチを作っていこう！そうすると、舞台上上がったとき不思議と支えてくれたみんなと一緒に舞台上がってくれている気持ちになったりする。みんなの手のひらが背中を押してくれているようなそんな気持ちになるから、大きな声で、気持ちをこめてデリバリーができたりする。だからこそスピーチって面白い。せっかく書いた文章があったとしても時には躊躇なく変える決断をしなければならない。最初はつらいかもしれないけど、気づいたらいつの間にかしっくり来ていることもある。今書いているスピーチ、みんなで一緒にいいものにしていこうね！！？自分もそのお手伝いができたらいいなと思っている。

5 全文をレトリカルにする

全文を書き終えたら、全文を読み返してレトリックを入れられないかを考える。レトリックとは伝わりやすくする工夫。なんの変哲もない文章を対比にするだけで、反復のレトリックを入れて繰り返し同じフレーズを入れるだけで、メッセージは伝わりやすくなる。1パラグラフ1パラグラフを一文一文を一単語一単語を語義選定していく。800語全てにその言葉、単語を選んだ意味があるようにしてあげる。レトリックを入れるのは最後でいい。リライトをする段階でレトリックに注力しても後から文章を変更するなら意味がない。レトリックに注力するのは終盤にして、リライト段階ではリライトに集中する。煌びやかな文章を、自分の紡いだ言葉を舞台上で発表するとき、本当に気持ちいい。そんな気持ちになる。

6 タイトル決定

タイトルは最後に決める。全文を一言にこめられるような言葉を見つけ出すには、スピーチが完成に近い状態じゃないといけない。タイトルはキャッチーで覚えやすいようにしてあげる。レトリックを使って伝わりやすい工夫をしてあげる。Why am I angry? スピーチを聞いて7年が経つけれど、いまだに覚えている。自分のスピーチがそんな感じで誰かの頭の中に、心の中に残るように最高のタイトルを付けてあげる。タイトルは最初にあって最後に決まる部分。